

聞いたまゝ

みづから

○パンと肉が常食の歐洲人は、大人でも牛乳をのまなければ居られないのだそうです。ことに十四歳までは、一日四合を用ふることが、榮養をとる上に、大切なことだと申します。先日、ある獨逸の婦人のお話にて、「腫物のために醫者から肉食を禁じられ、一週間全く、日本食をさらねばなりませんでした。ところが、毎日充分食べての一週間の後に、身體は疲勞しやすく、睡氣を催しやすく、一寸の道もあるいても疲れてしまつて困りました、やはり私共は體質が違ふのですね」とのことでした。この牛乳がなくなつた獨逸で、生れたての子を育てられず、さあ大變と、母親が、自分の乳をのませようとおせるのですが、永い間の粗食と空腹にこらへて來た身には乳の出ようもありません。コンデンスミルクはとて高くて手に入りません。詮なくキャベジを煎じてのませるのです。榮養にならないはまだしも、このた

めにすぐ腸をこはして、死亡致します。最愛の我が子が、火のつく様に、夜となく晝となく餓ゑて泣く、その聲さへ次第によわつて行き、じり／＼と衰へるその子を抱へて、母親は困憊しはてゝ、神經は焦ち「この上は私の血をすゝつて生きて呉れ」とさへ叫んでゐるのです。

○物價騰貴とか住宅拂底とかいひながら、それでもまだ、我が國では食物に、衣服に、住居に、さほどの苦痛をうけて居りません。ことに子供は、充分たべて、充分著て、しかも、少し自由のきく親達は、あつてもない、かうでもないど、三度の食事にも、おやつにも子供の發育のために心を碎き、流行のおもちやを興へることも惜しみません。なかには、食へすぎで、醫者のお世話になる子供も少くはありますまい。食べるのがいやになつて、お菓子をおもちやにして居ることさへよく見うけます。それですのに、戦禍

をまともにうけた中歐諸國では、子供はだゞ食べた
いのです。偶々、漫遊に通りがりの訪客が、慰め
るつもりで、おもちゃを興へますと、これをもつて
喜ぶかと思ひのほか、しばらくちつと見てゐますが、
やがて、力なげに手にとつて、それを甜め初めるの
です。お腹がすいてゐるのですから。

○
かの國で、缺乏したものは、牛乳ばかりではあり
ません。あらゆる食品ですが、わけても、砂糖は長
いことたべられず、政府から切符でわりあてられた
一つか二つの角砂糖を、勿論、つかつてしまへば、
あとはありませんから、それを室の真中につるして、
之を眺めて、「砂糖々々」と心の中でお念佛のよう
にいひながら、その下でお茶をのみます。最後にやつ
と一人づつ、こわく／＼に一甜めして、舌鼓みをうつ
のださうです。いよく／＼それもなくなつては、滋養價
値の全くないサツカリンを代用するようになりまし
た。お茶といつても、これまでのようなものはありません
から、莓の葉を乾して代用にします。煙草好
きも、今は、薔薇の花の散つたのをひろつてそれを
まいて吹かしてゐます。これ迄のように、知人を晩

餐にまねくことも出来なくなつて、大抵のお客は食
後に來て頂くことになり、強ひて食事を共にするこ
いふ場合は各自お辨當御持參といふことになつたそ
うです。そのお辨當も蕪のまぎつた黒パンで、それに
ジャムがついて居ます。そのまたジャムが大根や蕪
を煮てそれにサツカリンを入れ、染料でジャムらし
い色をつけたもので、味と來たらお話にならないそ
うです。戦後來朝されたあちらの方のお話に「先日獨
逸から友人が來て、故國に何か送りませう。何がよ
いかと相談しましたら、その方がジャムをと申され、
私はジャムなどは、不賛成でしたが、いゝえ日本の
ジャムは莓もよいものを、砂糖も本物をつかつた上
等なので、あちらに送れば喜びますとのこと、私は
こちらへ來る迄、ひどいジャムにもうあき／＼しま
したから、ジャムといふ名をきいてさへ、まぎ／＼
と、あの大根と蕪のごたまぢが出て來て氣持ちがわ
るくなるのです」。

卵についても同様で、一年に一人がやつと四つ、
それもなか／＼高いのです。また、いくらお金を出
しても、四つ以上は一人に割り當てられません。日
本のお正月ともいはれるクリスマスを、せめて樂し

くと思ふ心で、その四つの卵を買ひためて、この時のためにとつておいたのが、いざ使はうとしましたら、皆腐敗してゐたといふ、悲惨な滑稽がありました。

○ 戦前に貧民階級であつたものは、今は殆んど餓死するもの、病氣になつて死を待つものなどで、救済の手もどゞきかねるのですが、當時、中産階級のもの、今は、貧民の生活に陥つてゐるのだらうです。餓ゑをのがれるために、すべての財産をなげうつてしまつたので、住居としては、地下室を借りうけ、その冷たい室に、燈火もなく、たゞふるえて、空腹のまゝ夜を明かします。賣れるものゝかぎりを金にかへて、食べてしまひますので、ベットさへないのです。あちらの風俗でベットがないといへば、板敷の床にねるのです。この不衛生のためにまねく病氣がまたひどいことは申す迄ありません。

子供は養分不足で、神経が鋭くなつてゐますので、大變に泣きやすく、また、喧嘩もよくします。一寸さはずとも、ワーツとなきます。それを叱る勇氣もありません。疲れてゐて無理もないのですから。子供の骨なしや、せむしは澤山ですが、大人でも挫骨症

にかゝるのは非常なもので、一寸つまづいても、すぐもう、骨が挫けます、つまり灰分が不足して、大變にもろくなつてゐるのです。

饑ゑたる獨逸の子供の

ために!!

愛に國境なしと申しますが、ことに、子供に對して情の深い私共日本人は、かくまで苦しむ子供等をたゞ、手をつかねて死に渡すことは、忍び得ません。零細な志も、集れば、幾分慰めを與へることも出来ませう。本誌は、この御志ある方々のために斡旋の勞をどることに致します。就ては、便宜のため、一口、二十錢とは致しますが、いかに小額でも、小爲替で、東京市本郷區東京女子高等師範學校附屬幼稚園内、黒瀬艶子宛にお送り下されば、その主旨の届く様に取計ひます。